



# 第15回 日本プライマリ・ケア 連合学会学術大会

誰一人取り残さない持続可能な  
プライマリ・ヘルス・ケアに向けて

プログラム・抄録集

2024.  
6/7<sub>[金]</sub> ~ 9<sub>[日]</sub>  
in 浜松

The 15th Annual Conference of Japan Primary Care Association

会場

アクトシティ浜松

大会長

井上 真智子

(浜松医科大学地域家庭医療学講座 特任教授)

URL

<https://plaza.umin.ac.jp/jpca2024>



## シンポジウム 1 (オンデマンド)

### 犬と創る well-being

企画責任者：湊 しおり (藤田医科大学総合診療プログラム)

座長：湊 しおり (藤田医科大学総合診療プログラム)

高柳 友子 (社会福祉法人 日本介助犬協会)  
 若山三千彦 (特別養護老人ホームさくらの里山科)  
 柴内 晶子 (赤坂動物病院)  
 長江 千愛 (聖マリアンナ医科大学)  
 柴内 裕子 (赤坂動物病院)

## シンポジウム 2 (オンデマンド)

### 総合診療の世界を広げる・世界に広がる ; グローバルヘルスと熱帯医学

企画責任者：山梨 啓友 (長崎大学病院総合診療科 / 長崎大学熱帯医学研究所 臨床感染症学分野)

座長：山梨 啓友 (長崎大学病院総合診療科 / 長崎大学熱帯医学研究所 臨床感染症学分野)

守屋 章成 (長崎大学大学院 熱帯医学・グローバルヘルス研究科)

山梨 啓友 (長崎大学病院総合診療科 / 長崎大学熱帯医学研究所 臨床感染症学分野)  
 齊藤 信夫 (長崎大学 熱帯医学研究所)  
 Smith Christopher (TMGH, Nagasaki University & LSHTM)  
 守屋 章成 (長崎大学大学院 熱帯医学・グローバルヘルス研究科)

## シンポジウム 3 (オンデマンド)

### 病院総合診療医のリーダーシップ実践-持続可能なプライマリ・ヘルス・ケアを支えるために-

企画責任者：多胡 雅毅 (佐賀大学医学部附属病院 総合診療部)

座長：多胡 雅毅 (佐賀大学医学部附属病院 総合診療部)

鋪野 紀好 (千葉大学大学院医学研究院)

ディスカッサント：志水 太郎 (獨協医科大学)  
 佐々木陽典 (東邦大学医学部)  
 和足 孝之 (京都大学)  
 高橋 宏端 (順天堂大学附属順天堂医院)

## シンポジウム 4 (オンデマンド)

### チーム医療を推進するチームコーチング～成果と成長にブレイクスルーを起こす組織能力開発手法～

企画責任者：田口 智博 (藤田医科大学)

座長：田口 智博 (藤田医科大学)

田近 秀敏 (株式会社リーダーシップチーム・コンサルティング)  
 半谷 知也 (合同会社 LBJ)

## シンポジウム 3 (オンデマンド) 病院総合診療医のリーダーシップ実践 -持続可能なプライマリ・ヘルス・ケア を支えるために-

企画責任者：多胡 雅毅  
(佐賀大学医学部附属病院 総合診療部)

### 企画意図

リーダーシップは総合診療の各専門医制度の到達目標に含まれている、総合診療医に必須のスキルである。総合診療医は多様なリーダーシップを求められるため、自らが所属する医療施設環境の特性を理解し、実践する姿勢が重要である。リーダーシップを体系的に学習し習得する機会は乏しく、結果的にその修得を困難にしている実態がある。また、持続可能なプライマリ・ヘルス・ケアを達成するためにはリーダーシップの醸成がゲームチェンジャーとなる。

本企画では、事前に実施する日本の病院総合診療医を対象としたアンケート結果を踏まえ、医療現場の病院総合診療医が直面している課題、初学者が陥るピットフォール、リーダーシップに関する疑問などを明らかにする。企画当日は、その結果を共有するとともに、病院総合診療医のリーダーシップに焦点を当て、具体的な実践例、問題への対処法、リーダーシップ獲得の障壁について議論を行い、提言をまとめる。

## シンポジウム 4 (オンデマンド) チーム医療を推進するチームコーチング ～成果と成長にブレイクスルーを起こす 組織能力開発手法～

企画責任者：田口 智博  
(藤田医科大学)

### 企画意図

一人一人がやりがいと当事者意識を持ち、チーム一丸となって、成果を上げ続けるチームとはどのようなチームですか？

今後、働き方改革で勤務時間に制限がある状況で、それぞれの専門性を持った人材がチームを形成し、卓越した成果を生み出すことがますます求められています。チームは自然に形成されるものではありません。グループがチームになるプロセスを支援する組織能力開発手法がチームコーチングで、ビジョン実現・リーダーシップ開発・地域、社会への貢献を創り出すように相互の関わりを促進することを目的としています。

本シンポジウムでは、プロフェッショナルチームコーチのトップランナー3人が登壇し、チームコーチングとは何か、医療現場でなぜ必要なのか、どのような効果があるのか、成果と成長にブレイクスルーをどのように起こすのか、背景となる理論と事例を含めて紹介します。

田近秀敏さんから「チームコーチングを医療現場で実践することによってどのような可能性の扉を開くことができるか？」をテーマとして基調講演と医療スタッフが定着せず、会議も機能しない状態だったクリニックの事例を紹介します。チームコーチングの結果、今はスタッフのエンゲージメント、オーナーシップが劇的に向上し、他部門との連携によって一丸となって顧客満足に取り組んでいます。

半谷知也さんから「チームコーチングで地域の医療機関をパワーアップ」をテーマとして事例紹介をしていただきます。チームをつくるプロセスにおいては、そのメンバー自身の、あるいはメンバー間のさまざまな心理的障害が立ちはだかります。無意識のうちにかかってしまっているさまざまなブレーキをどのように外していくのでしょうか。全員が主体性を発揮するチームをどのように創っていくのでしょうか。

みなさまはチームコーチングにどのような価値を見出すでしょうか、どのように活用するでしょうか。